

第3章 京田辺市の地域福祉を取り巻く現状

▽ 「I♡京田辺ふれあいワークショップ」から

このワークショップは各地域の区長、自治会長や民生委員・児童委員、社協分会長による懇談会として、市内5つの地域に分けて開催しました。参加者はグループに分かれて、①各地域(区、自治会)での取組内容をはじめ、自慢できることは何か、逆に②地域の課題や気になることは何かについて意見交換や情報共有の場として開催しました。

自慢については、多くの地域で自治会・サークル活動や地域行事、老人会活動が盛んでつながりもあり、地域環境もよく住みやすい所という意見が多くありました。課題については、少子化や若者世代の減少、住民の高齢化により高齢者世帯やひとり暮らし高齢者、空き家が増えていることがあげられました。地域活動等が活発であるにもかかわらず、地域における将来の担い手不足や自治会運営、人とのつながりがなくなっていると感じるといった意見もありました。また、交通事情により買い物や通院が困難な地域もあり、災害に対する不安の声も聞かれました。

地域が抱える問題や課題について、住民が関心を持ち、解決に向けて取り組む力、『地域力』を育てていくことが大切だと、あらためて気づくワークショップとなりました。

各地域での「I♡京田辺ふれあいワークショップ」の様子



松井山手地域の声

花住坂・松井ケ丘・山手東・山手西・山手南

地域の強み（自慢できること）

花住坂

- 自治会加入率が高い。
- 高齢者災害時名簿がある。
- 登下校時に子どもたちのあいさつが積極的。
- いきいき体操、歌声のつどい、フリースペースがある。

山手東・山手西・山手南

- 三者懇談会（自治会、老人会、民協）をしている。
- 毎月、地域の男性との集いを実施している。
- 公民館の利用が活発。
- お買い物ツアーや老人会の活動が活発。
- 閑静な住宅地で自然豊かな場所。商業施設もある。

松井ケ丘

- ふれあいサロンや楽々クラブ（老人会と民生委員）が活発。
- 民生委員同士のチームが良い。
- 防犯パトロールや見守り活動など、安全・安心の環境づくりがある。
- 自治会の若い人との入れ替えが進んでいる。
- 地域で長年積み上げてきたことが継承されている。

地域の課題と感ずること

花住坂

- 住民、近所同士のつながりが薄い。
- 自治会の役員のなり手が少なくなっている。
- 公園に子どもの姿が少ない。
- サークル活動が活発であるが、参加者が特定の人に偏っている。

山手東、山手西、山手南

- 坂が多く歩行者や自転車は大変。バスの便が悪い。
- 困っている人の把握がしにくい。
- マンションなので隣人とのつながりが希薄。
- 高齢化で独居老人が多い。
- 公民館はほとんど使われていて、ゆっくりしゃべれる場所がない。

松井ケ丘

- 外出困難（買い物、ゴミ当番、運転）な高齢者が多い。
- お隣さんとの交流がなく情報がない。
- 自治会会員の減少や役員負担大。
- 住宅街を通り抜ける車が多く、危険を感じる。

大住地域の声

松井・西八・東林・三野・岡村・健康村・大住ヶ丘
健康ヶ丘

地域の強み（自慢できること）

東林・三野・岡村・健康村

- 新しく転居されてきた方が多く赤ちゃんが増加。
- 行事への参加者が多い。

大住ヶ丘

- ふれあい茶房やおしゃべりサロン、見守り活動、子ども夏まつりなど福祉活動が充実している。
- 顔見知りの方が多い。
- 同じ世代が多いため、諸事がまとめやすい。
- 買い物や病院などが近くにある。
- 防犯に力を入れていて意識が高い。
- 非常時の声かけができています。

松井・西八・健康ヶ丘

- 助け合いの精神を持っている人が多い。
- 住みやすい、穏やかな土地との声を聞く。
- 元気な老人が多い。
- 老人会の活動（グラウンドゴルフ、カラオケ、体操など）が活発。
- ほほえみ広場や子ども会の行事が積極的に行われている。

地域の課題と感ずること

東林・三野・岡村・健康村

- 災害時の名簿づくりと管理。
- 公共施設や商業施設が少ない。
- 自治会活動に参加する人が限られ、同じ人が役員をしている。

大住ヶ丘

- 空き家が増えてきた。
- 年々、地域の行事が減ってきた。
- 高齢化が進み、子どもが少なく静かである。
- 高齢に伴い、自治会の継続が困難。
- 自治会費の多くが、草刈りなどの業者依頼の費用。

松井・西八・健康ヶ丘

- 災害に備え、対策を立てる必要がある。
- サロン活動へ新しい方への参加呼びかけが必要。
- 高齢者夫婦世帯が増加している。
- 高齢で出掛けられない人の情報がない。



田辺地域の声

興戸・一休ヶ丘・田辺・薪・西住宅・東住宅・河原

地域の強み（自慢できること）

興戸

- 運動会や子ども会など、地域行事が盛んである。
- 公共施設が近く、買い物も便利である。

一休ヶ丘

- 高齢者の集いや乳幼児など子育てサロンが行われている。
- 各種役員のチームワークが良い。

田辺

- 田舎が半分、都会が半分で、生活環境に恵まれている。
- 地域のつながりが強い。

薪

- 美しい景観と静かさがあり、利便性が高い。
- 隣近所と仲が良く、子どもたちもしっかりあいさつができる。

西住宅・東住宅・河原

- 利便性が高く、大きな事故や災害がない。
- ふれあいサロンや老人会の活動など、サークル活動が活発。
- 区の協議員が協力的で円滑に自治会運営ができています。

地域の課題と感ずること

興戸

- 学生のマナーが悪い。
- 学校までが遠く歩道が狭く通行しにくいところが多い。

一休ヶ丘

- 坂道が多く、近くに買い物ができるお店がない。
- 60歳以上のひとり暮らし高齢者が増えている。

田辺

- 通学路が安全でない場所が多い。（交通量が多く、道幅が狭い）
- 独居や高齢者世帯が増え、空き家も増加している。

薪

- 空き家が増加している。
- ひとり暮らし高齢者が増加し、買い物が不便。

西住宅・東住宅・河原

- 木津川の氾濫や大雨の時の水害が心配。（ハザードマップでは水没する）
- マンションや新しい住宅ができ、知らない人が増えた。
- 区の行事に参加する人が決まっていて活動に無関心の人も多い。

草内地域の声

田辺団地・新興戸・草内・東・飯岡

地域の強み（自慢できること）

田辺団地

- ご近所の仲が良く、つながりが深いので病気の時など助け合っている。
- 自治会活動が活発で住みやすい。

新興戸

- 運動会や文化祭、健康の集いなど、自治会活動が活発。
- 公園を自主的に掃除するなど、緑がきれいに保たれている。

草内

- 地域の運動会や文化祭など、行事への参加者が多い。
- いろいろな年代が混在しているが、穏やかな性格の方が多い。
- 小さい子どもが増えた。あいさつもよくしてくれる。

東・飯岡

- みんながまとまって物事を決めている。
- 自主防災会を中心に地域の防災・防犯を推進している。
- 老人会や文化クラブなど、サークル活動が盛んでつながりがある。
- 新しい住宅が増え賑やかになった。元気な高齢者も多い。
- 高齢者への見守り活動や交流会などの取組がある。

地域の課題と感ずること

田辺団地

- 65歳以上の高齢者が4割を超え、独居や高齢者夫婦世帯が多い。
- 地域の活動に出てくる人が決まっている。（若い人が出てこない）

新興戸

- 自治会に入らない人や脱退する人が増えている。役員のなり手も少ない。
- ひとり暮らし高齢者など、災害時の避難に不安を感じる。

草内

- 地域の福祉施設との交流が少ない。
- ふれあいサロンにもっと出てきてほしい。（呼びかけが難しい）
- 地域役員の担い手が旧住民に偏り過ぎている。
- 災害時の地域としての動きがわからない。

東・飯岡

- 区の人口が多いので、全体把握ができなかったり、役員が大変。
- 若者が少ないため地域がさみしい。
- 地域のサロン活動が少ない。
- 交通手段がなく、買い物などに困る。

三山木・普賢寺地域の声

高船・打田・天王・多々羅・普賢寺・水取・高木・二又・山本
出垣内・南山東・南山西・山崎・江津・宮ノ口・同志社山手

地域の強み（自慢できること）

高船・打田・天王

- 静かで自然環境が良く住みやすい。
- 自治会の役員体制が確立しており組織が充実している。
- 隣近所が仲良しで集落のコミュニケーションが活発。

多々羅・普賢寺・水取

- ご近所との関係が良く、区のことにも協力的。
- 同志社大学がある。

高木・二又・山本

- 自治会の活動や老人会の活動など組織が活発。
- 新しい住宅ができ若い人が増えている。

出垣内・南山東・南山西

- 自治会での様々な取組や合同（民協、老人会、社協）での友愛訪問、ラジオ体操など地域コミュニティがある。

山崎・江津・宮ノ口・同志社山手

- 仲が良い人が多く、近所付き合いが濃い。地域のつながりが強い。
- 伝統行事など地元や地元の付き合いを大切にしている。

地域の課題と感ずること

高船・打田・天王

- 耕作放棄地が多く、農業の跡継ぎがいない。
- 買い物、通院、通勤など移動手段が不便。

多々羅・普賢寺・水取

- 地域に子どもが少なく、若い人とのつながりも少ない。
- 文化祭がなくなるなど行事が減少し、地域住民が一堂に会する機会がなくなってきた。

高木・二又・山本

- 新旧住民の交わりが少ない。

出垣内・南山東・南山西

- 若い世代の入区が少ない。役員の担い手がいない。
- 活動はいろいろあるが、参加者の顔ぶれが決まっている。

山崎・江津・宮ノ口・同志社山手

- 子どもが少なく、高齢者だけの世帯が増えてきた。
- 若い人の自治会活動への参加が少なく、役員のなり手がいない。今後の自治会運営が不安。

▽ 各懇談会から

ボランティアグループに所属する会員の声

コロナ禍以降の活動や運営面での変化について

- 緊急事態宣言中は中止していた。お互いに感染する心配があるので、しっかりと対策する必要があった。また、感染リスクだけでなく、活動する人数自体が減ってきているので、活動を制約する形になっている。
- 2年間は総会など対面で行えず Zoom で対応した。以前と同じようにはいれないが、学習会など普段の活動はできている。ただし、イベント等の依頼を受けて活動することはほとんどない。
- 社会福祉センターが閉館中は中止していたが、ある程度は継続して取り組んでいる。様々なところでの結びつきが減っていて、今後どうしたらいいか不安。
- 高齢の会員は、感染の不安から参加を控えておられる方もいるが、感染対策をしながら可能な範囲で集まって交流している。
- 対面での活動も少しずつできており、工夫をして取り組んでいる。
- できることをできる回数で行ってきた。
- 家族の感染リスクが高いなどの理由で活動できない方もいた。人に会わない生活が続くと精神的なダメージも大きい。
- 対外活動ができない時間を使って、スキルアップの活動など、できることに取り組んでいる。
- 福祉施設では家族でも面会できない状況が続いており、ボランティアの活動は難しい。来てもらうのも難しい。
- 少しずつコロナに対する見方が変化してきているように思われるが、メンバーが少なくなってきたてしまい苦しい。
- 定例会を分散して開催しているため、グループ間での連携は役員がいないとできない。
- 換気や間隔を空けるなど、感染対策に気をつけて活動をしている。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、ほとんどの団体活動に影響がありました。「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の発出に伴い、社会福祉センターが休館していた際には、活動の休止が数ヶ月に及ぶこともあり、継続していくことも危ぶまれましたが、オンラインの活用など、それぞれが工夫をしながら取り組まれています。

しかしながら福祉施設やイベント等でのボランティア依頼は限られており、新たな活動づくりや啓発活動による情報発信が求められています。



障がい者団体に所属する会員の声

コロナ禍以降の暮らしの変化について

- 視覚障がい者は情報弱者なので、コロナの流行状況がよくわからない苦勞が現在まで続いている。
- 通院など最低限の外出に控えるようになり、ひきこもりで足腰がすっかり弱くなり、歩ける距離がわずかになってしまった。散歩もできなくなり、スーパーまで行けず、近くのコンビニで済ませている。
- 友達と出掛けたりするのが楽しみだったが、社会的に難しくなり、家でひとり歳をとる感じがする。地域の集まりにも行かなくなってしまった。
- ボランティアサークルに週1回参加していたが、休みばかりで会うこともなくさびしい。遠い親戚も会う回数が減り、墓参りにも行けていない。
- マスクのせいで聞き取りができなくなった。病院でも筆談がほとんどになった。

団体の現状と抱えている課題について

- 集まってもらう立場として、なかなか取組ができなかった。(声かけができなかった。)
- 催しが少しずつできるようになってきた。研修会などもできればと感じる。
- ぼやきも含めて生活の不自由さを話したり相談できる機会がない。
- 会員の高齢化と若手の新規加入者がいないため、役員のなり手がおらず、団体として存続しなくなりそう。
- 例会が不定期となり、不参加の会員と日頃の連絡がほとんどなくなっている。困っていることがないかなど、状況が把握できていない。会員と疎遠になることによって、自然退会につながる。
- 健常者の支援なくしては団体活動がまわらない。
- 会員の感染がとても心配だった。今年のように集まれているだけでもいい。
- 今後、楽しい催しが増えとうれしい。お話会などができればいい。
- 規模は小さくてももう少し多く集まれば。会員が少ないので、情報サロンなど活発に実施して会員が増えて欲しい。

高齢の会員が多く、新型コロナウイルスの感染リスクから外出を控え、孤立する人が増えています。社会とのつながりが減少することで、これまでより情報が入ってこない状況も生まれています。

団体の活動も高齢化と相まって停滞傾向にあり、少しずつできる活動を模索しながら続けておられますが、運営に対する支援が必要となっています。

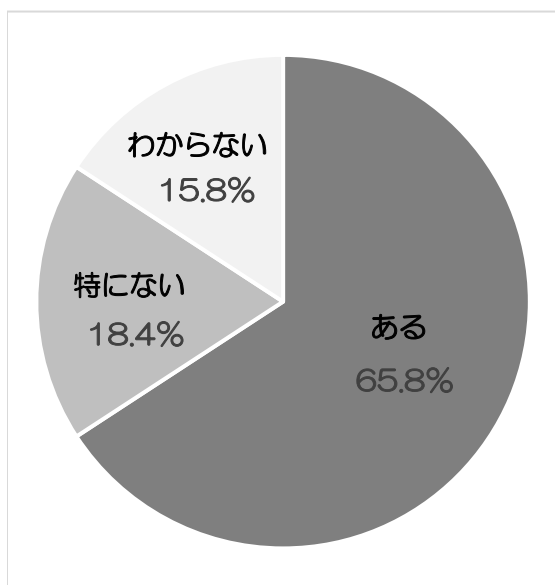


▽ 各アンケート調査から

障害福祉サービス事業所に聞いてみました

地域課題や福祉のまちづくりについて

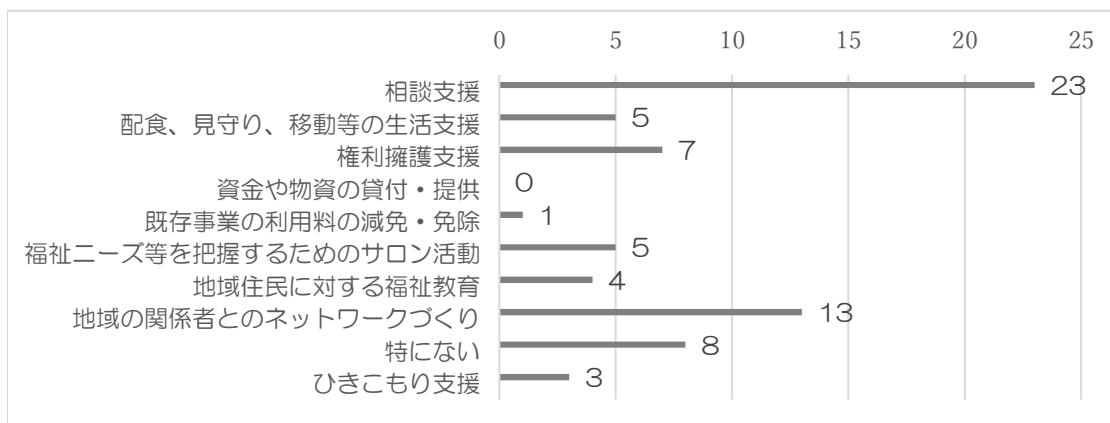
Q. 普段の仕事の中で感じている障害福祉サービス等の制度の狭間にあるニーズはありますか。



具体的には…

- ・精神疾患の未治療の方へのアプローチ
- ・盲ろう者の移動介助
- ・発達障害のある不登校児への支援
- ・ひきこもり支援
- ・ヤングケアラー支援
- ・急な本人や家族のトラブルの時の対応
- ・家族への支援
- ・支援者同士のつながり
- ・相談支援できるところが少ない
- ・地域移行へのインフラ整備
- ・サービスにつながりにくい方への支援

Q. 地域課題の解決や福祉のまちづくりに向けて、現在取り組んでいることはありますか。

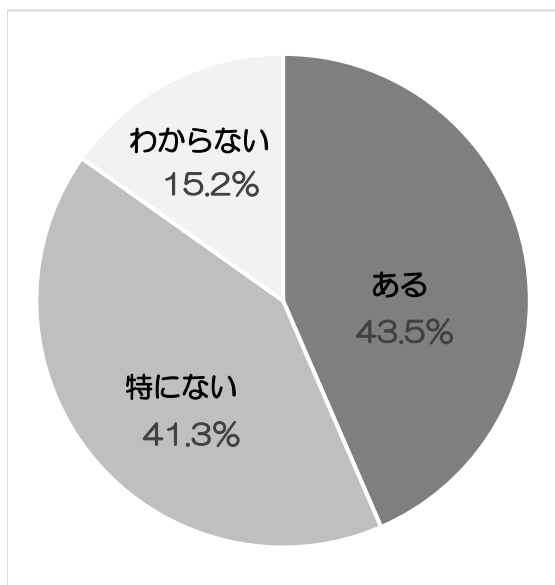


その他の質問では、今後充実してほしい取組として、「地域での支えあいの仕組みづくり」が最も多く、2番目に「権利擁護の確保の取組」でした。地域で支え合って暮らしていくためには、まずお互いへの関心や理解を深めることが大切で、そのための交流や情報共有が求められています。また、福祉サービスが充実する一方で、事業所間や地域の社会資源と連携できる仕組みづくりや、利用者家族への支援を求める声がありました。

介護保険サービス事業所に聞いてみました

地域課題や福祉のまちづくりについて

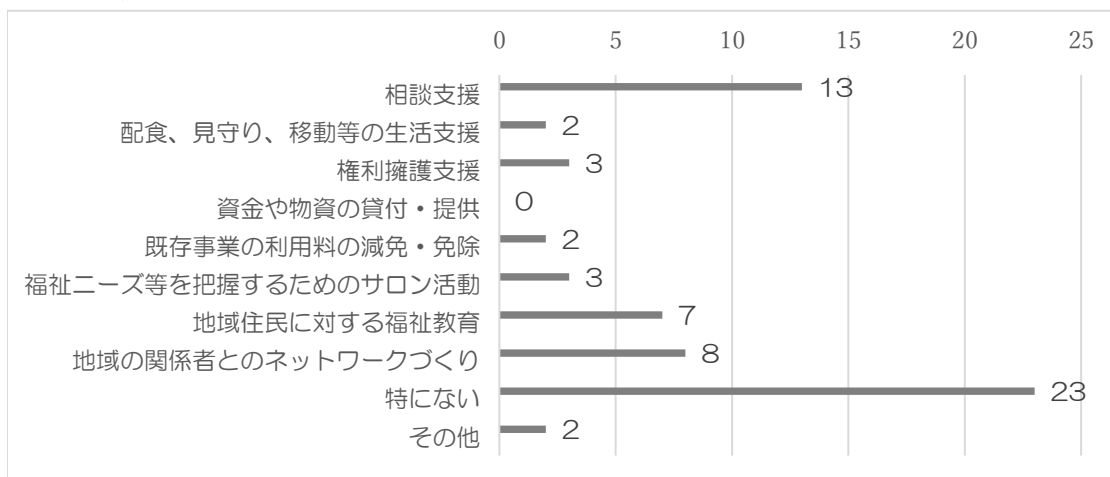
Q. 普段の仕事の中で感じている介護保険サービス等の制度の狭間にあるニーズはありますか。



具体的には…

- 末期がんの方のデイホスピス
- 通院介助や入院中の買い物、荷物を取りに行って欲しいという要望
- 独居の見守りや庭そうじ
- 同居家族のひきこもりに対する支援
- 介護者が急に体調が悪くなった時の対応
- 移動支援（有償ボランティア）
- 大型ごみの回収
- 低所得者層への経済的負担の軽減

Q. 地域課題の解決や福祉のまちづくりに向けて、現在取り組んでいることはありますか。



その他の質問では、今後充実してほしい取組として、「地域での支えあいの仕組みづくり」が最も多く、2番目に「ボランティア活動の推進」でした。福祉サービスでの対応が難しい高齢者の見守りや通院・買い物の付き添い、ちょっとした生活の中での困りごとなどに対する支援の充実が求められています。

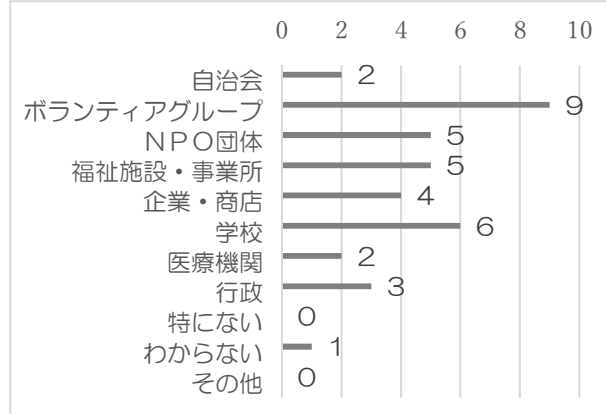
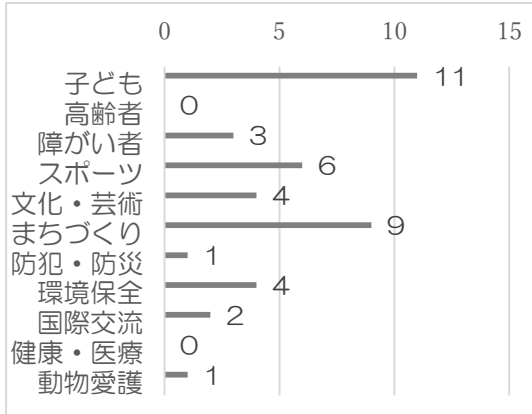
地域課題の解決や福祉のまちづくりに向けて、今後取り組んでみたいこととして、「地域の関係者とのネットワークづくり」が最も高く、積極的な情報交換の機会や福祉教育により市民の理解を深めていくことが必要との意見がありました。

大学生に聞いてみました

※同志社大学ボランティア支援室学生スタッフ等を対象に調査

ボランティア活動について

Q 興味や関心のある分野の活動は何ですか。 Q 連携して取り組みたい社会資源はありますか。



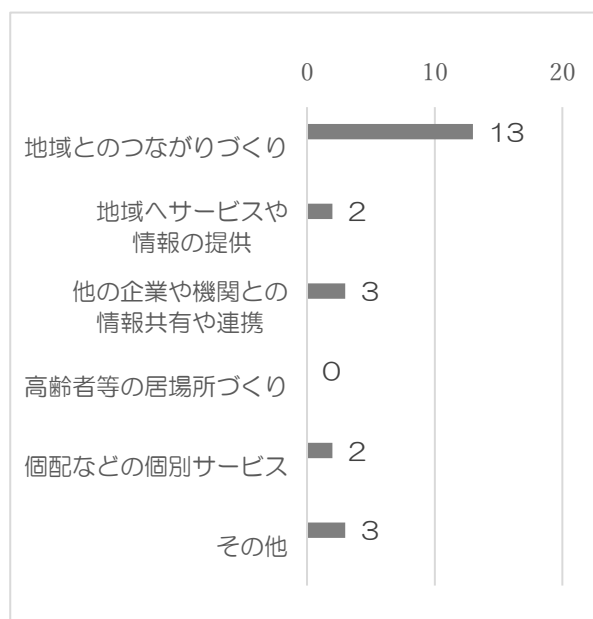
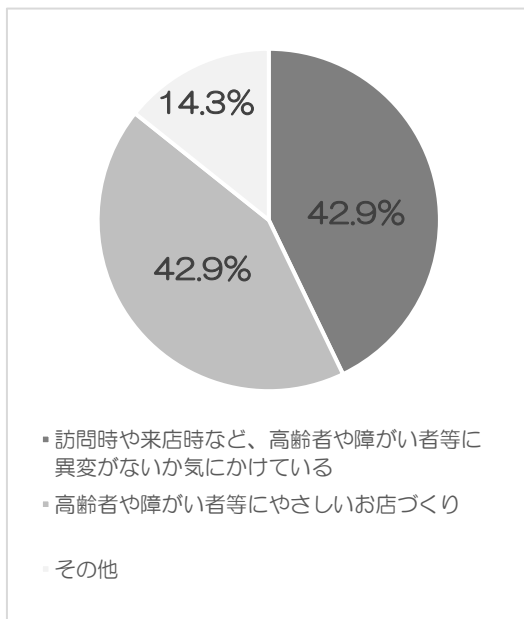
その他の質問では、京田辺市の“良いところ”として、「自然が豊か」という意見が多く、“もっと良くしてほしいところ”では、「飲食店や学生が利用する施設を増やしてほしい」という意見が多くありました。

京田辺市に住む（通う）学生に愛着をもってもらうためには、地域の魅力をわかりやすく伝え、まずは知ってもらうことが求められています。

まちづくりサポーター企業に聞いてみました

地域との関わりについて

Q 貴社で取り組んでいることはありますか。 Q 今後取り組んでみたいことはありますか。

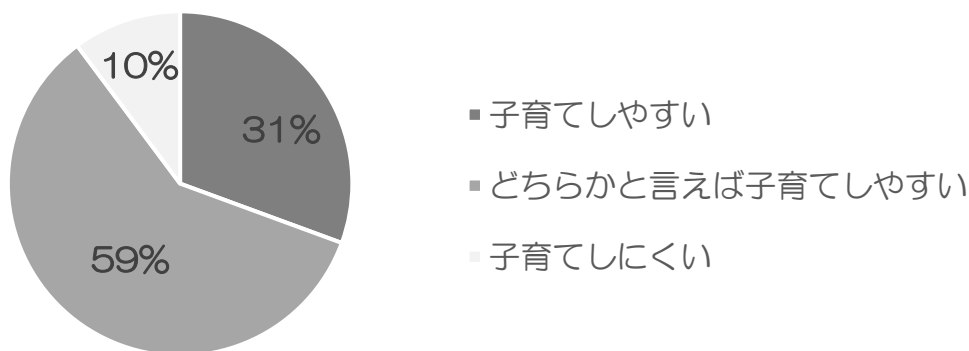


その他の質問では、今後充実してほしい取組として、「ノーマライゼーションの推進」が最も多く、2番目に「地域での支えあいの仕組みづくり」と「子育てしやすい環境づくりの取組」でした。誰もがお互いを尊重し合える風土づくりや小さなことでもつながりを維持していくこと、福祉に関する意識啓発の機会を増やしていくことなどのご意見があり、企業としても少しずつ活動に参画できるような仕組みづくりを期待されています。

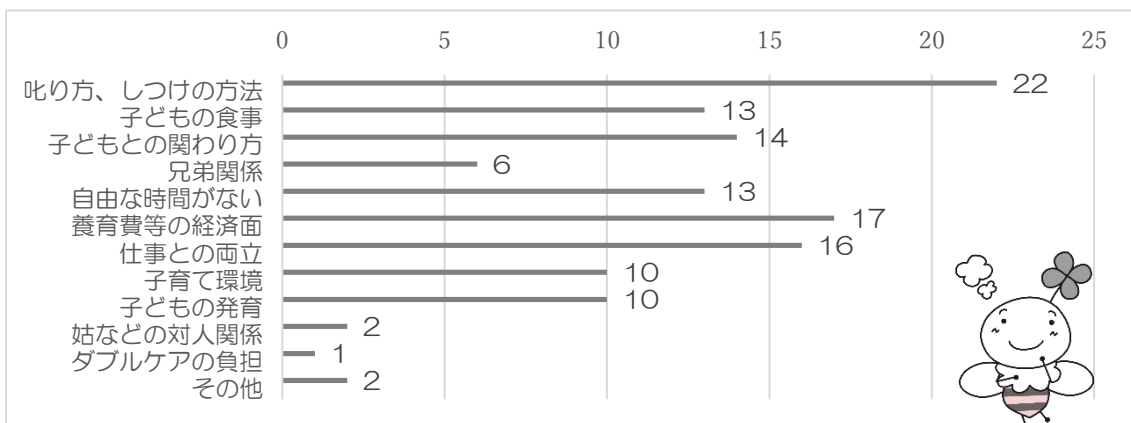
子育て世帯に聞いてみました

ご自身の子育てについて

Q あなたがお住まいの地域は子育てしやすいと感じますか。



Q 子育てするなかで主な悩みごとは何ですか。



その他の質問では、今後充実してほしい子育てに関する取組として、「学習支援」と「親がリフレッシュできる場」が最も多く、2番目に「居場所づくり」でした。小学生以上に対する支援が少ないことから、学校以外での勉強や交流ができる居場所が求められています。

「子育てや親子向けのイベントが充実していると思う」という意見が多くあった一方で、コロナ禍で地域交流やご近所づきあいの機会が減り、声を掛け合ったり気軽に相談できる環境が望まれています。

